

SCRAP-on-DEMAND™ Market Report

Open-N-Challenging Technology for Resources and Ecology

No.21 Vol.5 2001/04/1

続：完全再資源化循環への取り組み PART 2

『金属くずを完全再資源化循環させる再生処理技術とは！』

金属くずの適正処理の方法は大別すると破碎処理(シュレッダー)・切断処理(ギロチン)・圧縮処理(プレス)の3つになる。しかし、シュレッダーやギロチンと言えども何でも処理してしまう万能機械ではない。例えばシュレッダーは、針金やワイヤー類を入れるとハンマーシャフトに絡み付き緊急非常停止が作動し、ギロチンは硬鋼材を切断すると刃がボロボロになりホルダーまでも歪み傷んでいく。『鉄で鉄を処理する』……一見、機械設備の為せる技だと思えるのだが、実はそれらハードのためのソフトウェアがあってはじめて完全再資源化循環が達成できる。その“カーネル・プログラム”とは？

緊急レポート：日本の鉄スクラップ財はなぜ安い！

- 毎年3月期に入ると各製鋼メーカーの決算時期とあって生産調整、在庫調整などが行われるため、製鋼原料買付相場は一時的に下落する。しかし、2001年のそれは『底なし大暴落』という悪夢が現実となり、完全に国際相場からはずれた日本史上最安値へとばかり進み続けている。
- これは、市場経済原則を無視した『バブル・シンドローム(バブル症候群)』からなる製鋼メーカーの打算と誤算が生み出した「ツケ」だといえる。つまり、楽観的需要予測による鋼材製品の「作り過ぎ」が不可逆在庫を生み出し、決算月に入り在庫の換金資金化を急ぐあまり売値の暴落を招いたが、鋼材製品は売れなかった。誰もが思う、「未だ、経営体質が変わっていないのか」...
- 『鉄』はどこを切っても生産財であって、消費財のように売値をいくら安くしたからといって瞬間的な需要の喚起は期待できない。それどころか一端下落させた売値(買値)は、同一製品に対するデフレーションとして捉えられ、買値を期待売値へと誘導するには第三者的インフレ効果が作用しない限り非常に難しいといえる。
- 一方、金属くずスクラップ業者(中間処理業者)では、製鋼原料を輸出して国内製鋼原料相場下落を抑制しようと必死の攻防を繰り広げているが、製鋼原料相場は国際相場としてオープン化されていることから「買い」は日本国内相場を建値とする海外需要先の動きによって下げ止まりは見られない。
- 創業者が経営手腕を揮う東京製鐵や伊藤製鐵所などの電炉メーカーでは、独立独歩の相場を張り必要な量を必要な時だけ仕入れ、生産し、販売する。正に当たり前のことを当たり前に実行しているメーカー群は、一応にシンドローム状態を引きずりながら業績を悪化させている。
- 日本の鉄スクラップ財が世界で一番安い！！ バブル・シンドロームから抜け出す方法はただひとつ、経営者自らが『起業家』となって即断即決即行を自分の意志と責任のうえに行い、社員・投資家・係わる取引先すべての満足を追求し提供し続けること。いま、製鋼メーカーの転生を求む。SPK

市況 & 相場動向

急騰 やや上昇 横ばい やや下降 暴落

■	新 断	■	特 級 [90cm以内甲山物]	⚡	アルミニウム一般
■	新断メッキ	■	一 級 [厚物長尺切断物]	●	ステンレス一般
■	ダライ粉	■	シャ ー 材 特 級 [薄物シャ ー 切断物]	😊	銅 屑 一 般
⚡	铸造向け一般鉄屑 [铸物機械解体物]	😊	白黒エンジン	😊	真 鍮 屑 一 般
⚡	モーター&トランス [その他雑品物]	■	カ ー プ レ ス [エンジン付/無]	⚡	ミックスメタル [シュレッダー材]

- ◎ どの機械メーカーも言う；「この機械を設備すれば“鬼に金棒”ですよ。」と。しかし『金属くず(鉄スクラップ財)』を再生処理するのは、そうなま易しいものではない。
- ◎ たかが『鉄くず』だと安易な考え方で切断や圧縮処理を行うと『鉄』は即怒りだす！！また、その怒り方が半端ではない。板バネをギロチンで切断すれば板バネ弾丸となって時速160Km以上の猛スピードで飛んでくるし、アルミ切り粉やアルミ切削バーマは、スパーク火花が1つ飛んだだけでも青白い閃光を放ちながら1,800度強の高温で燃えあがる...
- ◎ 『鉄で鉄を処理する』その瞬間、もっとも重要なことは『鉄』を扱う人間がそれを見極めるだけの『技能』を備えておけるかである。例えば、切断機で厚さ60mmもの平鋼板をある方向からいくら切ろうとしてもまったく刃が立たないのに、異なる方向から刃を当てた途端にスパッ！と斬れてしまう。それを「神業」とか「偶然」だとか「まくれ」だと凡人(ひと)は言う。
- ◎ そしてその『技能』とは何か？「偶然」をいつでも起こせるための条件とは何か？それは、人が人の“目”を見てその人の心の動きや感情、病気までも見極められるように、鉄や非鉄にもそれらがもつ固有の性質(性格)や生い立ちまでもが刻み込まれている「鉄の目」があるのに気付いたからである。
- ◎ そこで、社員全員『目利き技能者』になることを目指して「鉄の目」の研究を行い、実践的理解を深めるためOJT/OffJTを通じて機械(ハードウェア)を操てみた。すると1日あたりの処理量が、そして1人あたりの扱い数量が今までとは比較にならないほど超飛躍的に向上したのである。そして機械に取り付けられている過負荷異常検知装置のカウント数が激減したことは、修繕コストの低減と同時に社員の「鉄」に対する危険予知能力、危機管理能力が高められたことを裏付けている。
- ◎ 完全再資源化循環達成のための再生処理技術とは、「再生処理を行う設備の機械的能力や技術だけではなく、再生する物の本質を見極めることのできる『目利き技能者』すなわちソフトウェア人財が共有するカーネル・プログラム(知識・技能)をもってそれら機械(ハードウェア)を自在にコントロールし再生処理を行うことのできる総合的な能力・技術。」だと定義づけられます。

シュレッダーダスト最終処分ご負担額の値上げについて

◎ さて周知のごとく、小名浜精錬株式会社では従来よりシュレッダーダストの焼却処分地(中間処理施設)として東北をはじめ関東圏などのシュレッダー業者から発生するシュレッダーダストの処分受け入れを行ってまいりました。しかし、小名浜精錬では現在それらの受け入れを規制しており、また、野積みとなっている約60万トンとも言われている焼却後の残渣物(燃えがら)の最終処分先が不明瞭であるとして業界全体がマヒ状態に陥っております。また、管理型埋立処分場では受け入れ余裕がないことからシュレッダーダストの処分料を高く設定し、事実上の受け入れ拒否を行っているのが現状です。

◎ そこで弊社では、使用済み自動車(廃自動車)、廃産業用機械設備類、廃電機機械類および建設工事に伴い発生する金属くず等に付帯する残渣廃棄物(シュレッダーダスト)分を排出事業者の方々から代わり安定的に最終処分できる先として青森ニュー77ル・Iガ-リイクリグ株式会社(通称:青森RER)へ委託することと致しました。

例)	事前選別処理済み廃自動車 エンジン無しガラの場合	700Kg/台 30% 210Kg 20円/Kg 4,200円/台
----	-----------------------------	---

(シュレッダーダスト含有率)
(シュレッダーダスト含有重量)
(シュレッダーダスト最終処分単価)
(シュレッダーダスト最終処分ご負担額)

しかるに、収集運搬費用、適正事前選別処理費用、中間処理選別費用等を除く、シュレッダーダスト分の最終処分コストが20円/Kgとならざるをえない諸事情をどうかご理解頂き、シュレッダーダストの最終処分に係る実費費用のご負担のほど宜しくお願いいたします。

※但し、廃タイヤ等他の処理処分費用は含まれておりません。

最新市況のお問い合わせ先:

0248-76-2155

Copyright 1997 Okoshi Kogyo Inc./ Okoshi Engineering Co.,Ltd./ SCRAP-on-DEMAND™

Published by 大越工業株式会社
Directed by Yukio OKOSHI
Produced by Shigeyoshi P. KOMAGATA
福島県須賀川市横山町140 〒962-0041
Tel:0248-76-2155 Fax:0248-76-3366